

山田堰

江戸時代、干ばつで苦しむ農民に十分な水を供給し水田を整備するために設けられた施設です。洪水などで幾度か改修されたものの、基本構造は当初の姿を留めています。暴れ川と呼ばれる九州一の大河・筑後川に造られた山田堰の仕組みは、福岡県出身の中村哲医師によってアフガニスタンの農地復興にも活用されました。平成二六年に「世界かんがい施設遺産」に登録されています。

三連水車（堀川用水と朝倉揚水車群）

堀川用水は江戸時代に造られた用水路で、筑後川の山田堰から取水し、朝倉地域一帯の水田を潤しています。土地の高低差に対応するため、沿線には菱野の三連水車・三島の二連水車・久重の二連水車が設置されています。これらの水車は江戸時代には存在しており、五年毎に架け替えられながら現在まで稼働を続けています。日本最古かつ最大級の実働する水車として、堀川用水とともに国指定史跡に指定されています。



三連水車の里あさくら

朝倉市山田にある農産物直売所で、地元産の果物・野菜を使った手作りジェラートが楽しめるカフェや、水車について学べる情報コーナーもあります。広場には三連水車の実物大モニュメントがあり、観光スポットにもなっています。

朝倉橋広庭宮碑

約一三〇年前、斉明天皇が百済復興軍を朝鮮半島へ派遣するために造った宮が朝倉橋広庭宮（朝倉宮）です。宮の場所にはさまざまな説があり、未だその場所はわかっていません。江戸時代の記録『筑前國統風土記』『朝倉紀聞』に朝倉市須川を宮跡と考える記述が残っていることから、宮の比定地として須川（長安寺地区）があげられ、石碑が建てられています。



恵蘇八幡宮

朝倉市山田に所在する神社で、斉明天皇七（六六一）年の創建です。斉明天皇の百済救済に際し、天智天皇が戦勝祈願をしたことに由来します。一〇月の秋季例大祭では恵蘇八幡宮御

原鶴温泉

筑後川の河畔にたたずむ名湯で、福岡県随一の湧出量を誇ります。弱アルカリ性単純泉は肌の古い角質を落とし、単純硫黄泉は色白効果が期待できることから、「W（ダブル）美肌の湯」として人気を集めています。開湯の一説には、傷ついた鶴が浸かり、傷を癒して飛び立った後の水たまりが温泉だった、という話があります。色白つるつる美肌の「つる姫ちゃん」は、原鶴温泉のマスコットゆるキャラです。



道の駅「原鶴」ファームステーションバサロ

杷木久喜宮にある福岡県最初の道の駅「原鶴」につくられた農産物直売所で、新鮮な野菜や果物が並びます。道の駅前の畑には菜の花やひまわりが植えられ、三月と九月には満開の花々が来訪者の目を楽しませて



くれます。九月から始まる柿のシーズンにも多くの買物客で賑わいます。

原鶴を中心とした筑後川鵜飼

鵜飼の始まりは古く、一三〇〇年前の歴史書『古事記』『日本書紀』に記載があります。筑後川の鵜飼については、霊亀二（七一六）年及び三年に生葉郡から都（奈良・平城京）に鮎を送った木簡があることから、この頃には始められていたのではと考えられています。



おしろい祭り



杷木大山の大山祇神社で一二月二日に斎行されるお祭りです。伝承では、大山祇神社は「山の神」と呼ばれ、山の神（女神）がお化粧をする（おしろいを塗る）ことを意味する祭りと伝えられています。



神幸行列（市指定無形民俗文化財）が奉納され、恵蘇宿・隠家森の御旅所までおくだりがあります。三月には前月に神前に供えたお粥のカビの生え具合で豊作を占う「粥だめし祭」が、六月には天智天皇が水時計の漏刻をつくり、時刻を人々に知らせたことに由来する「時の記念祭・時計供養祭」が斎行されます。



天智天皇杯百人一首朝倉大会

朝倉は小倉百人一首の筆頭歌・天智天皇による「秋の田の飯庵の庵の 苦をあらみわが衣手は 露にぬれつつ」の歌が詠まれた場所と考えられており、百人一首の聖地に数えられています。一月下旬の新春かるた大会や、競技かるたの名人・クイーンによる奉納かるたが行われます。



子孫繁栄と五穀豊穡を祈願する祭りで、顔に「しとぎ」と呼ばれる新米（初穂）を粉にして水で溶いたおしろいを塗り、そのつき具合で来年の農作物の収穫を占います。顔についたおしろいは家に帰るまで洗ったり落したりしてはならず、家で牛馬に飲ませると無病息災になり、火の中に入れると火事になると言われています。

杷木神社

創建は継体天皇の御代（約一五〇〇年前）と伝わっており、筑紫国造磐井が反乱をおこした際、物部麁鹿火大連がこの神社に祈願し、無事に乱を鎮圧したことが記録に残っています。御祭神は伊弉諾尊、伊弉冊尊、大己貴命（大国主神）、武甕槌命で、境内には大国主神の眷属である兔が、狛兔として奉納されています。



あさくら観光協会
ホームページ



朝倉市ホームページ
観光・文化